

## なめがた市民 100 人委員会「第2班」議事概要

議論した基本目標	市民のニーズに合った公共交通を実現する
コーディネーター	熊井成和(構想日本特別研究員)
審議員	平山清直(構想日本)
説明担当者(自治体)	事業推進課
日時	2021年 7月 17日(土) 15時 00分から 16時 00分
その他	参加者数 会場 3名 オンライン: 1名 欠席者数 16名

### 総括

#### コーディネーター総括

- 車に乗れなくなった時、乗れない時の移動手段の確保。未来に向けて今から備えることが大事。行方市にツールはたくさんあるが知られていない。市民は知ってみる、使ってみる努力を。行政は、情報をどうやって伝えるか。「伝えるから伝わる」へ。
- 結節点の考え方。3町が合併している行方市だからこそしっかり考えること。

### 協議の流れ(摘録)

#### 協議しているテーマ①

##### 公共交通

コ)いろいろな議論をした中、一枚に落とし込んだ。ポイントをピックアップした。現状として、車社会で困ってはいない。だから公共交通を使わない、知らない。しかし、いつか車から離れて暮らすことになることを考えて今から考えておこう。おいしいごはん、飲みに行くなども。

近場ならデマンドタクシーもあるが遠方だと電車やバスの乗り継ぎ。移動手段の確保。利用者の目線で考えた交通網、新しい手段としての交通手段。ウーバーイーツの車版とか。バス停までの移動が困難な現状。交通の結節点、太いラインで強化する。バスに乗るためのインセンティブ、ポイント制にする、バス好きの方のためのアイデア。コミュニティで助け合って移動手段を確保する。

市の方では公共交通計画を作ったところ。市民からの提案として「知ってもらおう」ことを重視してほしい。小学生目線のポスターやデマンド型コミュニティバスの広報など。

新しい移動手段の提供など新しいアイデアを出していただけたら。自分が車に乗れなくなった時に、行きたいところに行けるようにする手段。

コ)バスで出かけて、デマンドタクシーでタダになる制度。今日初参加の方は知っていた？

委)資料を見て初めて知った。

委)情報が入ってこないというより、情報は出ているけれども見えづらい。

委)：委員、コ)：コーディネーター、審)：審議員、市)：説明担当者

市)見えやすくする工夫は考えていかないといけない。

委)利用者も入手しようとしなないといけないのかな。

コ)市は情報を出している、様々な媒体で出しているけど伝わっていない。どのように伝えるのが大切だとこれまでの議論でよく話してきたので、今後改善が期待できる。その具体的な方法のアイデアがほしい。伝えているけど、伝わっていないを解消する方法はないだろうか。こういう風にしてくれたら情報を受けやすいというアイデア。

委)ターゲットを見据えて情報発信。

市)公共交通の利用者で、65～85才位の方に説明に行ったことはある。地道な活動は必要かなと思う。

コ)公共交通の分野だけでなく、ラジオ体操をしているところで公共交通のことを知ってもらうとか、関係するところで情報を伝えるのもよさそう。

委)説明書を見たときに、こんなものがあるんだとまず驚いた。ただ、これを使うときはすでに車を手放したり体が動かなくなったりしたときかと思うが、そこから利用を始めるのは分かりにくい。今のうちから年に数回でも利用してみる機会が大事かと思う。イベント的要素で「まず乗ってもらう」ことをやってもらっては。

コ)まず乗ってもらうイベントを仕掛けるというのはよい試み。

市)高齢の方を対象にだが、イベント的にやってみたことはある。しかし、うまく使ってもらうまでは行かなかった。

委)このチラシを見て「乗ってみたい」とは思った。

市)地道な広報も必要だろうなと思う。福祉分野で活用してもらうなども必要。

コ)買い物と連動させて促進するなど考えられるか。足で困る、というのは生活全般のことだから、市職員だけで解決させるのも難しい。

委)必要性のある人たちも、うまいことやっているんだと思う。実際に乗った人から良くなかったという話もきいた。

コ)乗らなければ知らないし、誰も乗らないと縮小していく。

委)田舎には促進販売がある。

コ)「公共交通」として情報を流すのではなくて、買い物などをカバーする移動手段として全体像が見えてくる情報を伝えるようにすると、市民の移動手段として選択できるようになるのでは。

審)とりあえず利用してもらうために、スタンプラリーなどを活用して「目的の場所に行く」ということでバスを利用させたところがある。バスは無料で、スタンプラリーを達成したら図書カードとか。

市)市では取り組んでない。

審)スタンプラリーは高校生を対象にやったが、うまくいかなかった。小中学生の方が合うかも。

コ)次の話題。新しいシステム。ウーバーイーツのように。制度的にできるかは置いておいて、新しい取り組み。自動運転は幹線道路などが中心。50年後を考えるとアイデアとしてはいいと

委)：委員、コ)：コーディネーター、審)：審議員、市)：説明担当者

思う。

委)ウーバーイーツのような取り組みとは？

コ)配送員が食べ物を持っていくように、目的地に人を連れていくこと。方面が一緒の時に使えないか。

委)乗るところは停留所みたいなところで、降りるところは自由な形でやってもらえるならよさそう。

コ)公共交通でドアツードアが達成できるかどうか。

委)イタリアの事例で、似たようなものがあったが電波が悪く使えないということがあった。近所の人を連れて行ってくれる、くらいの距離感で使えた方がよいのでは。顔が見える人同士の方が心配は減りそう。

コ)地域コミュニティで助け合いの流れはある？

市)法規制との兼ね合いもあるが、費用補助などの取り組みは検討している。

コ)人の輸送のためにお金を払う、などをするのは法規制にひっかかりやすい。ただしやりようはある。

委)システム化すると制約が出てくるが、助け合いでやっていけるところもある。委員会の提言として、今後も研究してほしい。

コ)デマンドタクシーを使ったことがある人が少ない。行政の立場としては使ってもらわないと充実しない、市民からすれば充実したら使う。どうすれば充実するだろうか。

委)高齢の方が使うという話だったが、バスに乗るより安いのか

市)片道一回当たり500円。

コ)料金は一つの指標。まずは知ってもらわないといけない。どうなったら乗ってみようと思うか。

委)まずは乗ってみないとね。

委)乗ってみたいという思いはある。往復1000円だとして、乗ってみて価値があると思えるならその後も乗り続けると思う。車を乗っている人には1000円は高いが、車がない人にとって1000円ってどうなんだろう。

コ)1000円の価値が問われる。デマンドタクシーに乗って付加価値が出せるか。

委)乗って良い体験をすれば口コミなりに広まっていくと思う。

コ)今後デマンドタクシーの利用が増えることで、支出が増えるとか懸念はある？収入が上がる？

市)コストは決まっているので、利用者が増えれば収益が上がる。

コ)移動手段をサービスととらえたとき、レンタカー・レンタサイクルなどの情報が集約されていつでも確認できるようになる。今後の準備として、タクシー、介護送迎、医療機関の送迎などが連携していくことが大事。

市)茨城県が取り組んでいるが、実証実験までは至っていない

コ)一歩踏み込んで取り組んでいただきたい内容ではある。

委)行方市は旧町ごとにまとまって、中心街がない。人の動きがバラバラで、出かける先も別々だと思う。

市)旧町で生活圏が違うのは、合併後も変わってない。市の結節点を中心地にしようという考えはある。

コ)交易的な目線で結節点を考えないといけない。

市)市の中心にある病院を結節点として開発していく。これまではバスなどの減便も課題になっているが、市の考えを知っておいてくれば。

ホ)ホワイトボードの写真(コーディネーターが議論をまとめた資料含む)

戦略への反映

## 公共交通

市が考える施策
・市営路線バスの再編
・広域圏及び生活圏域間のアクセス強化
・利用しやすい公共交通環境の整備
・利用者目線に立った分かりやすい情報提供の実現
・地域全体で支える公共交通の構築

委員会からの提案 *行政・地域・市民の役割
これまで提案されたこと (モレはありませんか?)
● 利用しない市民にも知ってもらうための <b>アイデア</b> * 小学生目線のポスター、伝わる情報発信
● ウーバーイーツのような新システム導入のための <b>アイデア</b>
● バスに乗るインセンティブのための <b>アイデア</b> * ポイント制導入、サツマイモバスなど
● デマンドタクシーの充実のための <b>アイデア</b>
新たなアイデアなど (新たなアイデアなどはありませんか?)
● 例：公共交通の自分ごと化のために必要な対策
● 例：行政、市民、地域、事業者の連携に必要な対策
● 例：地域協働による移動手段確保の可能性
●
●